

授業科目(ナンバリング)	生活支援技術ⅢA(DD207)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
<p>本演習では、介護を必要とする人がどのような状態であっても、できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるようにするための支援方法を学ぶ。尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり見守ったりすることも含めた適切な介護技術を用いて支援することを目標とする。そのための安全に援助できる技術や知識について習得していく。また、人が生きていく上に欠かせない食事について、その介護を学ぶ。そして、自立支援、生活の豊かさについて考え、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得していく。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている(介護福祉士としての)専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							②⑤⑦ ⑨⑩⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> おいしく、安全に食べるための環境整備や直接的な食事介助について説明ができる。 利用者に不快な思いをさせないための支援について説明ができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 実技テスト 	50% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 食事時の利用者に関して情報を収集し、おいしく安全に食べる支援について指摘できる 				<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 	10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 食事を支援する介護者の姿勢、食事支援を受ける利用者の特性について表現ができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 演習レポート 授業態度・参加度 	10% 5%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状況・状態に応じた食事介助や環境整備について他者と協調し、取り組むことができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 演習レポート 授業態度・参加度 	10% 5%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 定期試験 (50%)：筆記試験(持ち込み不可)を行う。 演習レポート (20%)：介護実習室で演習に取り組んだ際の「生活支援技術演習レポート様式」で作成し、提出を課す。尚、レポート記載方法については授業内で指示する。評価後は授業等でフィードバックする。 授業態度・参加度 (10%)：演習課題への取り組み状況や教員への確認・質問状況等で評価する。 小テスト (10%)：開講期間中に 2 回、授業内容に関する課題を問う。テスト後は模範解答集を配付し(もしくはポートフォリオに掲載し)、自己採点を行ってもらおう。 実技テスト (10%)：寝たきり状態で食事をする利用者への環境整備実技チェックを行う(シーツ交換)。 							
授業の概要							
<p>食事と栄養に関する基礎的な知識を確認する。また、自立に向けた適切な食事介助の知識、技術を学び、利用者にとってのよりよい食事を考察する(ディスカッションも行う)。ゲストスピーカーを招いた学修も計画中である。</p> <p>授業は講義室での講義と介護実習室での演習を中心に行う。参考資料や演習の手順等については、随時プリントを配付していく。演習内容によっては、演習レポートの提出を課す。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：医歯薬出版株式会社『新版 介護基礎学-高齢者自立支援の理論と実践』(2017)</p> <p>指定図書：医歯薬出版株式会社『新版 介護基礎学-高齢者自立支援の理論と実践』(2017)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>普段何気なく当たり前のようにできている動作について意識的に捉えるようにしてください。食事をするために、身体のどの部分をどのように動かしているのか等々、より具体的にイメージできることが重要となってきます。演習も多い授業ですので、他者との交流を多く持つためにも授業には主体的に参加することを期待します。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	自立に向けた食事の介護①	食事の意義と目的について学ぶ。	予：食事とは何か 復：配付資料の再読
2	自立に向けた食事の介護②	食事に関する利用者のアセスメントについて、ICFの視点から学ぶ。	予：ICF 概念確認 復：配付資料の再読
3	自立に向けた食事の介護③	食事摂取の基礎知識（栄養状態の保持・増進、水分摂取量等）について学ぶ。	予：食事摂取動作の確認 復：基礎知識を整理
4	自立に向けた食事の介護④	食事摂取の基礎知識（摂食動作）について学ぶ。 口腔ケア（方法や留意点）について学ぶ。 （ゲストスピーカー・実践家）	予：口腔ケア調べ復：配付資料の再読
5	自立に向けた食事の介護⑤	おいしく食べることを支える介護の工夫を学ぶ。	予：美味しく食べるための工夫検討 復：工夫のまとめ
6	自立に向けた食事の介護⑥	おいしく食べることを支える介護の工夫について、事例等を用い検討する。	予：ベッド上での摂食イメージ 復：配布資料の再読
7	自立に向けた食事の介護⑦	安全で的確な食事介助の技法（ベッド上、座位にての全介助）について学ぶ。	予：誤嚥調べ 復：レポート作成
8	自立に向けた食事の介護⑧	安全で的確な食事介助の技法（ベッド上、座位にての全介助）について学ぶ。 口腔ケアの方法や留意点をもとにケアを実践する。	予：全介助者の気持ちを考える 復：演習レポート
9	自立に向けた食事の介護⑨	安全で的確な食事介助の技法（寝たきり状態にある人への全介助）について学ぶ。	予：寝たきり利用者の食事摂取検討 復：演習レポート
10	自立に向けた食事の介護⑩ 実技チェック	寝たきり状態で食事をする利用者への環境整備実技チェックを行う（シーツ交換） 安全で的確な食事介助の技法（視覚障害者への介助）について学ぶ。	予：シーツ交換練習 復：演習レポート作成
11	自立に向けた食事の介護⑪	誤嚥・窒息の予防と対応について学ぶ。 （ゲストスピーカー・実務家）	予：誤嚥・窒息調べ 復：演習レポート
12	自立に向けた食事の介護⑫	誤嚥・窒息の予防と対応について、事例等を用い検討する。	予：誤嚥・窒息予防の工夫を考える 復：配付資料の再読
13	自立に向けた食事の介護⑬	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点について学ぶ。	予：介助の心構え 復：配布資料の再読
14	自立に向けた食事の介護⑭	他の職種の役割と協働について学ぶ。経口摂取について学ぶ。	予：経口摂取動作を調べる 復：配付資料の再読
15	自立に向けた食事の介護⑮	自立に向けた様々な食事の介護について、これまで学んだことをふまえて理解を深める。	復：全項目の復習（テキスト・配付資料にて）
16	定期試験		